中和反応化学式

四季 ワタリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
中和反応化学式

【Nコード】
N7532I

【作者名】
四季　ワタリ

【あらすじ】
何かと何かが何かのきっかけで触れ合いぶつかる時に、僕らは何かを失い何かを生み出す。そんな小さな小さな変化の物語。

『中和反応化学式』

澄み切った透明の水の入ったバケツに
黒い絵の具を全部ぶちまけて
グルグルとよくかき混ぜて
バシャバシャと叩きつけ
また黒い絵の具を全部注ぎ
適当に眺めていると
僕の心と似たものが出来上がっていた

※

黒色っていうだけでみんなはすぐに否定する
黒色っていうだけで汚いと決めつける
黒色はみんなを暗くするから……

いやそれを否定してるわけではないよ

僕だって正直言って黒色は好きじゃないんだ

本当はパァっと華やかにする赤色や

美しさを際立たせる青色や

力強さを感じさせる緑色や

みんなと仲良くできる白色が

僕だって好きなんだ

でも僕には黒色しかないんだよ

どんなに望んでも

黒色しか手に入らないんだ

――だからは僕はいつも心を黒色で塗り潰すしかないんだよ

※

そしてある時

僕は知らない女の子から話しかけられた

「うわぁ……凄く真っ黒な水だね」

「あぁ……僕には黒色しかないから」

「黒色が好きなの？」

「いや……大嫌いだけど、僕には黒色しかないから白色なんかで薄めることができないんだ」

「君は黒色を薄めたいの？」

「あたりまえだ！　僕はこの黒色のせいでみんなと一緒になれなかったんだから……本当はみんなと仲良くなりたかったのに……」

いつの間にか涙が流れていた

ポツポツと黒色の滴がバケツに吸い込まれていく

「もう泣かなくていいよ。私が薄めてあげるから」

そういって女の子は

僕のすぐ隣りのバケツに水を満タンに入れ

そしてその水を僕のバケツに注いだ

何度も何度も

繰り返し繰り返し

満タンに入ったバケツを持って……

重たいハズなのに

女の子は苦しい顔もせず

僕に微笑みかけながら

その行動を繰り返していた

そんな彼女の姿を見て

僕の頬には

透明の涙が伝っていた

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7532i/

中和反応化学式

2011年1月16日06時43分発行